

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：21020

| 「学ぶ力」 | |
|-------|--|
| 実態 | 成果 |
| | <p>◇「共通指標アンケート」設問7、21、23の結果が市全体と比べて高い。本校の児童は、学習に積極的に参加したり、分かるために努力したり、難しいことに挑戦しようとしたりする意欲が高いことが分かる。</p> <p>◇「共通指標アンケート」設問24で肯定的に回答した児童の割合が、市全体と比べて大幅に高い。学びの基盤を支える読書習慣の定着や、読書を活用した学習の展開を図りたい。また、言葉で読み解いたり、自分の考えを表現したりするなど、言語活動の更なる充実を図りたい。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の国語では、「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」が全国平均を上回った。本校で大切にしてきた、授業や委員会活動等における「他者を意識した伝え合い」が成果につながったと考えられる。</p> |
| | <p>◇「共通指標アンケート」設問9、14で肯定的に回答した児童の割合が、市全体と比べて低い。本校では、令和7年度よりAARサイクルでの課題探究的な授業づくりを進めているが、協働探究の場の更なる充実を図る必要がある。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査、算数・理科の結果は、全ての領域で全国平均を下回った。筋道立てて考えることや、根拠を明確にして考えることなどへの苦手意識が見られる。直接体験を伴った追究（数学的な活動や観察・実験など）に加え、言葉で考えたり、表現したりする活動の充実を図りたい。</p> |
| | <p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇「共通指標アンケート」設問4「人の役に立ててうれしいと感じることがある」と回答した子の割合は、市全体と比較して6%低い。また設問3「自分が必要とされていると感じる」と回答した児童は市全体と比べるとわずかに高いが、他の項目と比べると低い。これらのことから、本校児童は、他者からの承認を十分に得られていないと感じており、自己有用感が低い状態にあると言える。引き続き、「自分が大切にされている」と実感できる教育活動の充実が求められる。</p> |

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

相手意識をもって考える資質・能力

| 取組 | 課題探究的な学習の推進 に向けて | 自治的な活動の充実 に向けて |
|----|---|---|
| | <p>(1) 単元を通したAARサイクルの視点での授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見通しをもつ場」「個別探究と協働探究の場」「振り返る場」の3つの場を位置付けた課題探究的な授業を日常化する。 <p>(2) 「教職員が自ら学びをデザインする」研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が自分なりの課題意識をもって主体的に学ぶことができる研修体制をつくる。 | <p>①主体性、創造性が発揮される異学年交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドリームプロジェクト～ペア学年での遊びを通じた交流や、遠足 <p>②学校生活を自治的に送るための児童委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資生館小23歳おめでとうの会～各委員会で工夫する開校を祝う催し <p>③全学年が相手意識をもって取り組む卒業期の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送る会（1～3年生）、引継式（4・5年）～6年生への感謝の気持ちを表す場 |
| | <p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p> <p>◇「ICTの活用についてのアンケート」項目1の肯定的回答が高いことから、本校児童は、学習で端末を使用することに楽しさを感じている一方、調べ学習やアプリを使った活動、プログラミングには課題が残る。また、情報モラルを意識した活用についても継続して指導していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端末を「使う」から「使いこなす」へ～授業、授業以外の場面での、更なる端末の活用を図る。同時に端末を安全に使用するための情報モラル指導の充実を図る。 | |

<本プログラムの実行に向けて>

